

週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子
☎(752)0453中村たけとし
☎(409)5475小林えみ子
☎(482)5451

発行
日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5
TEL(483)1151

コミュニティバスが7月31日で廃止に

利用者から怒りと不満の声が

コミュニティバス試行運行期間が終了することにもない5月26日、八千代市地域公共交通会議は、利用者の目標数を超えた八千代台コースは現行のまま運行し、他の6コースは7月31日で廃止し、代替案を検討することを決めました。

代替案の具体的な運行が8月1日からならまだしも、現時点で一切運行計画が決まっています。しかも、市の公報でのお知らせは7月15日号というのですから、あまりにも市民を無視したやり方ではないでしょうか。

このことを知った利用者から、「突如廃止することに納得できない」「サークル活動に参加できない」などの苦情が寄せられています。

コミュニティバス試行運行に至った経緯

コミュニティバスは、「ぐるっと号」の利用者が減少を続けていることから、1交通不便地域の生活交通手段確保、2民間バス事業者などとの役割分担、3財政負担の軽減に目的を変更したことによるものです。

しかし、4台で7コースにし、運行区間も「ぐるっと号」から大幅に変更したため、これまで生活の一部として、通院や買い物など長年に渡って利用していた方が利用できなくなりました。

また、運賃値上げ(100円→200円→160円)で利用者はさらに減少し、結果として、財政負担の軽減にもつながっていない状況になっています。

利用者減は目的の、2民間バス事業者への配慮にばかり重きを置くあまり、高齢者など利用者の生の声を聴いたコースの設定や時刻・運賃などへの反映をさせてこなかった結果です。



市の公共バスとしての主体性を

高齢者をはじめ、移動手段に困っている市民は多くいます。

民間事業者への配慮ではなく、そうした方々の声こそ、真摯に耳を傾けた運行計画が求められます。そもそも市が実施したアンケートでも、公共施設循環バスとして、土日の運行、増便による利用増を求める声が圧倒的でした。

八千代市では民間事業者を圧迫すると撤退されてしまうという懸念があるとしています。

しかし、決まったパイの中で、公共バスを運行させて利用者を増やしたいのであれば、大なり小なりの圧迫は避けられません。

やるからには主体性を持った取り組みが求められます。

みなさんのご意見・ご要望をお聞かせ下さい